

令和 4 年度 学校評価報告書（総表）

1 学校の概要			
学校名	筑波大学附属坂戸高等学校	校長名	江前 敏晴
幼児・児童・生徒数（R5.3.1現在）	466	学級数	12
2 教育目標等			
① 学校教育目標	<p>複雑で予測の難しい社会の変化を自分自身のこととして前向きにとらえ、自分と自分のまわりの幸せを願い、社会に生きる一人の「主人公」となって自らの可能性を最大限発揮し、多様な他者と協働することで、新しい未来の姿を構想し実現していく人材の育成を目指す。</p> <p>「Engage today. Empower tomorrow.」（明日をつくる、今を生きる。）</p>		
② 学校経営方針	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症対策を進めるとともに、本校が大切にしている一次情報に触れる学びの再構築を図る。 ○SGH・WWL 事業の実績をもとに、さらなるグローバル教育の推進を目指す。総合学科パイロット校としての使命を果たすため、社会の要請に即した教育のあり方を研究し実践する。 ○教職員一人ひとりの勤務カレンダーを作成し、勤務の適正化を図る。 ○教員同士のコミュニケーションがとれる働きやすい職場環境を目指す。 ○国際バカロレア日本語ディプロマプログラムの IBO（国際バカロレア機構）査察に向けて準備を進める。 ○受験者数を増加させるため、本校の教育実践を積極的に発信する。 ○IB 教育の理解を広げるため体験授業や説明会の回数を増やす。 ○学校の目標を教職員全員が理解し、組織体として行動できる学校を目指す。 ○将来構想を受けて生じる諸課題に対応する。 ○教職員の研修の機会を確保し自らの専門性を高めようとする雰囲気醸成に努める。 ○科研費など外部資金の申請を増加させる。 		
③ 重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・WWL 事業の次の事業について、将来構想とも関連させながら取り組む。 ・継続して IB 校としての認定を受ける。 ・校外フィールドワークの効果的なあり方について検討する。 ・勤務カレンダーを適切に運用する。 ・将来構想に対応する。 ・主体的な研修・研究を促す。 ・働きやすい職場環境づくりを目指す。 		
④ 前年度（令和 3 年度）の成果と課題	<p>WWL 事業最終年度であったが、新型コロナウイルス感染拡大により、活動は大幅な制約を受けることになった。そのような状況であったが、国内フィールドワークの実施、国際シンポジウムの開催などについて成果をあげることができた。また、IBDP（国際バカロレアディプロマプログラム）二期生も世界平均を超える成績を修めた。生徒募集についても、本校の教育がメディアの注目を集めたこともあって、志願者を増加させることができた。一方、職員の勤務時間短縮、勤務カレンダーによる適切な勤務管理は十分に行うことができなかった。前年度と比較してストレスチェックの数値は大幅に改善したが、働きやすい職場環境の醸成は端緒にすぎたばかりであるので、引き続き重要な課題として取り組んでいく。</p>		

3 重点目標達成についての総括的評価

新型コロナウイルス感染拡大の影響が少しずつ収束に向かう中、3年ぶりの海外姉妹校からの訪問や国内フィールドワークの実施、ESD国際シンポジウムの開催、留学生の受け入れができた。

9月にIBOによる定期確認訪問が実施され、これまでの本校のIBDPの取り組みについて評価を受けた。その結果、IBOからはIB校としての継続認定を受けた。また、これまでの教育活動についても高く評価された。

11月に（公財）ユネスコ・アジア文化センター「教職員交流を通じた国際比較研究事業」に採択され、本校から延べ12名の教職員がタイ、インドネシア、フィリピンを訪問することができた。本事業では2月の研究大会に合わせ、同じ三カ国から教職員12名を招聘し、教職指導に関する研修交流会を実施した。

定期的な校内研修会を通して、本校教育の特徴であるキャリアコア科目について議論を深め、2月の研究大会で発表することができた。生徒募集においても、各地で行われる学校説明会に積極的に参加し、本校の教育の特徴について多くの中学生・保護者に説明した。その成果もあって、受験生も大幅に増加した。教員研修を通じて、教職員が本校の教育の特徴を言語化し発信できるようになったものと考えられる。

職員室の設置により、教員同士のコミュニケーションが向上することで、業務の効率化を進めることができている。今後も会議時間等の短縮、事務作業の軽減など職場環境改善を進める必要がある。

4 令和5年度の学校課題

- ・WWL、Sea-teacherプログラムなど大学と連携した取り組みについて。
- ・生物資源学類と協働で実施予定の科目の展開について。
- ・海外姉妹校などからの留学生受け入れや本校生徒の留学・派遣促進について。
- ・生徒負担を抑えながら展開できる海外での校外学習について。
- ・探究学習の指導方法や評価方法に関する実践的研究について。
- ・受験生を増やすための学校説明会や個別相談会などの広報活動について。
- ・IBDPの理解促進のための、体験授業や説明会の開催について。
- ・業務の見直しなど教職員の働き方の改善について。

5 学校課題に向けての具体的な取り組み

- ・先取り履修コンテンツの制作協力、生徒のオンライン配信講座の受講、単位の認定。
- ・大学国際局と連携した海外からの教育実習生の受け入れ。
- ・新規3校（インドネシア、タイ、フィリピン）との海外連携協定の締結、留学希望者の積極的な受け入れ。
- ・本校の卒業生による留学体験説明会などの実施。
- ・海外校外学習を担当する現地代理店と直接交渉によるコスト削減、現地日本法人との連携によるプログラム開発。
- ・探求コア科目の授業を担当する委員会を中心とした検討会の実施。
- ・外部説明会への参加、学校説明会、入試説明会、個別相談会、学校見学会などの実施。
- ・IB体験授業、オンラインを含めたIB説明会を複数回（全10回以上）実施。
- ・休みやすい職場雰囲気を醸成し、振替や休暇取得を促進する。

6 成果物一覧（出版物・紀要・書籍等）

- ・第25回総合学科研究大会資料集
- ・新時代の教育のための国際協働プログラム教職員交流を通じた国際比較研究事業
「ESD for 2030を担う教員養成のための国際協働教育実習プログラムに関する国際比較研究」報告書
- ・筑波大学附属坂戸高等学校 研究紀要 第59集

学校評価（自己評価）報告書（項目別表）

令和 4 年度

学校名	筑波大学附属坂戸高等学校
-----	--------------

項番	評価項目	具体的評価結果
1-1-3	体験的な学習や問題解決的な学習、児童生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習の状況	部分的に新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたものの、2年次生徒全員参加の国内校外学習、希望者による栃木県那須町でのアジア学院実習やオーストラリア研修を実施できた。また、科目群選択科目を中心に体験型授業を展開することができた。 2年次 T-GAP（つくさかグローバルアクションプログラム）や3年次卒業研究では生徒が主体的、自律的に活動した。
1-1-4	個別指導やグループ別指導、習熟度に応じた指導、児童生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの個に応じた指導の方法等の状況	英語力の高い生徒に対して、個別的な追加指導を行った。日本語の支援が必要な生徒に対して学習支援活動を行った。IBDP 履修者に対して、補充的な学習支援活動を実施した。
1-1-7	コンピュータや情報通信ネットワークを効果的に活用した授業の状況	BYOD を導入し4年目となった。校内のいずれの場所でも Wi-Fi がつながる環境も構築できている。基本的にシステム障害もなく運用できている。多くの授業でデバイスの積極的な活用が見られる。一部、Wi-Fi の電波が弱い場所があるため、改善する必要がある。
1-2-1	学校の教育課程の編成・実施の考え方についての教職員間の共通理解の状況	計画的な校内研修（1.5ヶ月～2ヶ月に1回）により、本校の教育の特徴について言語化することを進めることができた。2月に実施した研究大会では成果を発表することができた。
1-2-3	児童生徒の学習について観点別学習状況の評価や評定などの状況	毎月開催の教育課程検討委員会で教科ごとの観点別評価の状況について報告を行った。概ね当初の予定通り進めることができていく。
2-1-1	学校の教職員全体として組織的に進路指導に取り組む体制の整備の状況	進路指導に関する研修会を実施し、進路指導に関する情報共有を実施した。教職員全体で3年次生に対する面接指導などを実施した。3月には進路指導に関する年間総括の研修会を実施した。
2-1-3	児童生徒の能力・適性等を発見するための工夫等の状況	1年次「産業社会と人間」、2年次「T-GAP」の振り返り、担任との二者面談を通じて生徒自身が自分の興味関心等を言語化できるよう指導の工夫を進めた。
3-1-5	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等との連携協力による教育相談の状況	対応が難しい生徒に対するケース会議を毎週実施した。また、福祉行政などとの連携をどのように進めるかについても SC、SSW の助言を受けながら対応することができた。
3-2-1	自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができるような指導の状況	本校が新しく採用した整容規定について、2ヶ月に一回の割合で生徒と教員両者によるリフレクションを実施した。生徒が自分たちの学ぶ場をどのようにしていきたいのかを主体的に考えられる場面づくりを進めた。

4-1-4	日常の健康観察や、疾病予防、児童生徒の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断の実施の状況	毎日の検温結果を登録する「けんおんくん」を独自に運用するとともに、生徒への新型コロナ感染症拡大防止に関する具体的な取り組み（基本的感染予防対策、体調不良時の適切な行動等）を促した。
5-1-1	学校事故等の緊急事態発生時の対応の状況	校長を中心として、教育局とも連携しながら適切に対応することができた。
7-1-2	校務分掌や主任制等が適切に機能するなど、学校の明確な運営・責任体制の整備の状況	学校運営に関する詳細について、各部部长および年次主任等の分掌責任者がメンバーである企画運営員会を月に2回開催し、情報共有や企画提案の協議、課題対応などを進めた。
7-1-5	勤務時間管理や職専免研修の承認状況等、服務監督の状況	個人別の勤務カレンダー作成、振替簿、休暇簿の取扱は適切に進めることができた。
7-1-6	各種文書や個人情報等の学校が保有する情報の管理の状況、また、教職員への情報の取扱方針の周知の状況	職員室の運用開始により、学校が取り扱う個人情報は原則職員室へ保管することを決めて、概ね関連書類等は教科教員室から職員室へ移動させることができた。
10-1-4	学校評価（自己評価・学校関係者評価等）結果の公表状況	年度末に生徒、保護者に対してアンケート調査を実施した。結果は本校ホームページで公表する。
14-1-99	工程表に従って、新校設立に向けた準備を進めることができたか。	新校の基本概要（どのような教育を行うのか、特徴や魅力、社会的必要性など）と開校に向けた課題（生徒募集、施設建設費用、現校の関係者への説明など）について検討を進めた。